

【科目コード：態 004】

科目名	公害総論	科目区分	専門
履修時間	34 時間	講義コマ	17 コマ
開講学期	前期	授業形態	講義
対象学年	1 年	単位数	2 単位
担当講師	中村 昌宏	実務経験	環境コンサルタント勤務経験

【授業のねらい】

公害の歴史と現状、水質汚濁の機構、水質汚濁の影響など公害防止管理者試験に出題される法規を中心に学び、科目合格を目指す。

【授業の展開計画】

- 1～3 コマ目 環境基本法の概要
- 4～5 コマ目 環境関連法の概要
- 6～7 コマ目 循環型社会形成関連法の概要
- 8 コマ目 廃棄物関連法の概要
- 9 コマ目 中間テスト
- 10 コマ目 化学物質管理関連法の概要
- 11～12 コマ目 地球環境関連法の概要
- 13～14 コマ目 特定工場における公害防止組織の整備に関する法室の概要
- 15 コマ目 最近の環境問題
- 16 コマ目 各種環境管理手法に関すること
- 17 コマ目 期末テスト

【履修上の注意事項】

出席率が 1 / 3 以下の者は不可とする。また遅刻 3 回で欠課 1 回とする。

【評価方法】

本校の規定に基づき、全科において共通評価基準にて算出する。
出席点（40 点満点）と試験点数（60 点満点）の合計点数により秀、優、良、可、不可の評価をする。

【テキスト】

公害防止管理者等国家試験 徹底攻略受験科目別問題集 公害総論

【参考文献・その他】

特になし

【科目コード：態 035】

科目名	環境アセスメント	科目区分	専門
履修時間	34 時間	講義コマ	17 コマ
開講学期	後期	授業形態	講義
対象学年	2 年	単位数	2 単位
担当講師	中村 昌宏	実務経験	環境コンサルタント勤務経験

【授業のねらい】

環境アセスメントを行うため必要な大気・水質・生態系の基礎知識、優先する環境要素の選定方法、予測・評価技術、環境アセスメント実施例について授業を行う。

【授業の展開計画】

- 1 コマ目 持続可能な発展とは何か
- 2 コマ目 環境アセスメントとは何か
- 3 コマ目 気汚染の常識
- 4 コマ目 水質汚濁の常識
- 5 コマ目 騒音の常識
- 6 コマ目 予測評価項目の選定方法
- 7 コマ目 中間試験
- 8 コマ目 環境影響の予測（物理的な要素）
- 9 コマ目 環境影響の予測（自然生態系要素・社会関連要素）
- 10 コマ目 環境影響の予測（実例）
- 11 コマ目 環境評価（定量的）
- 12 コマ目 環境評価（定性的）
- 13 コマ目 環境の総合的な評価方法
- 14 コマ目 環境の総合的な評価方法
- 15～16 コマ目 沖縄県環境影響評価条例
- 17 コマ目 期末試験

履修上の注意事項】

出席率が1／3以下の者は不可とする。また遅刻3回で欠課1回とする。

【評価方法】

本校の規定に基づき、全科において共通評価基準にて算出する。

出席点（40点満点）と試験点数（60点満点）の合計点数により秀、優、良、可、不可の評価をする。

【テキスト】

プリント配布

【参考文献・その他】

「環境アセスメント入門」（化学工業日報社）

環境アセスメント 沖縄県環境影響評価条例のあらまし

【科目コード：態 043】

科目名	ビオトープ I	科目区分	専門
履修時間	34 時間	講義コマ	17 コマ
開講学期	前期	授業形態	講義
対象学年	2 年	単位数	2 単位
担当講師	中島 康夫	実務経験	計量証明書・研究機関勤務

【授業のねらい】

自然のしくみを理解するために「生態系」とは何かを学びます。人が生きるためにも重要な生態系のしくみや生物多様性の概念を知り、土壌、植物・動物の生態や役割について理解する。

【授業の展開計画】

- 1 コマ目 生態学とは何か
- 2 コマ目 生態系のしくみ
- 3 コマ目 生物の多様性と分布
- 4 コマ目 群集の成り立ち
- 5 コマ目 植物の生活
- 6 コマ目 群集は遷移する
- 7 コマ目 中間テスト
- 8～9 コマ目 今、問題になっていること
- 10 コマ目 ビオトープを考える視点
- 11 コマ目 さまざまなビオトープ
- 12 コマ目 ビオトープを保全・再生するために
- 13～16 コマ目 ビオトープの事例
- 17 コマ目 期末テスト

履修上の注意事項】

出席率が 1 / 3 以下の者は不可とする。また遅刻 3 回で欠課 1 回とする。

【評価方法】

本校の規定に基づき、全科において共通評価基準にて算出する。

出席点（40 点満点）と試験点数（60 点満点）の合計点数により秀、優、良、可、不可の評価をする。

【テキスト】

ビオトープ計画管理士公式テキスト

【参考文献・その他】

自然環境保全の基礎（人と自然の研究所）

自然環境保全のためのビオトープのとらえ方と法律の知識（人と自然の研究所）

【科目コード：態 046】

科目名	環境生態学研究 I	科目区分	専門
履修時間	85 時間	講義コマ	17 コマ
開講学期	前期	授業形態	実験
対象学年	2 年	単位数	2 単位
担当講師	中島 康夫	実務経験	計量証明書・研究機関勤務

【授業のねらい】

これまでに修得してきた専門知識と実験技術を基礎として、問題点の発掘から解決まで自主的に取り組むように指導する。これを通じて研究の推進力、発想力、設計製作能力、日程管理能力、チームプレイ能力および得られた成果を説明する能力を身につける。

【授業の展開計画】

- 1～2 コマ目 情報収集と研究テーマの選定
- 3～4 コマ目 研究計画書の作成
- 5 コマ目 研究計画の発表
- 6～14 コマ目 環境生態学研究実施
- 15～16 コマ目 環境生態学研究実施(中間発表資料作成)
- 17 コマ目 中間発表 (研究の途中経過)

【履修上の注意事項】

出席率が 1 / 3 以下の者は不可とする。また遅刻 3 回で欠課 1 回とする。

【評価方法】

本校の規定に基づき、全科において共通評価基準にて算出する。
出席点 (40 点満点) と試験点数 (60 点満点) の合計点数により秀、優、良、可、不可の評価をする。

【テキスト】

必要に応じて配布

【参考文献・その他】

特になし